



新毎日

12月14日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



AIと人の「感測」の融合

世界最大の民間の気象情報会社「ウェザーニューズ」と毎日新聞社による「#地球塾2050」が12月14日、千葉市美浜区中瀬の幕張テクノガーデンにあるウェザーニューズ本社で開かれました。芝浦工業大学柏中学高等学校の中高生計24人が参加し、気象情報と「みんなで作る天気予報」の重要性を学びました。

手のひらの上の未来

ウェザーニューズの仕事に関わる全員が、人命を自然災害で亡くすことがないようにしたい、という企業理念に基づいて、全霊を傾けて仕事に臨んでいることに感動しました。そして、意味がないと思われていたユーザーからの情報を観測に用いることで、気象庁を上回る予測精度を実現させたこと知り、「未来を自分たちで作り上げる」という言葉の意味と重さを感じました。未来をデザインし、それを実現させる。このことが持つ力は、とてつもなく大きいものだと思います。

【波田野奏】



1枚の写真でも

ウェザーニューズが運営している「ウェザーリポート」では、ユーザーの投稿した写真を人工知能(AI)に学習させることで、天気予報の予測精度の向上に役立てています。その成功例として、かつて予測が難しいと言われていたゲリラ豪雨の予測を、約90%も的中させる事が可能になったことが挙げられます。現在では、ウェザーニュースアプリで、現在地にゲリラ豪雨が来る30分前に「ゲリラ豪雨アラーム」の通知が届くサービスを展開しています。たった1枚の写真で、天気予報の精度を向上させることができます。ユーザーの写真がこのように役立てられていると聞き、とても驚きました。

【岩田柚希】

人間にしかできないこと

ウェザーニューズという世界で活躍する会社が、ただ機械的に気象のデータを観測するだけではなく、人が感じた

「感測」という形で報告を集め、そのデータを使用して天気予報の精度を上げているということにびっくりしました。そして、すごい魅力を感じました。近い未来、AI化が進んでいく中で、こういった人間にしかできないことを取り入れて行くことも、とても大事だと思いました。

【山本悠人】



実用されるAI

ウェザーニューズが「災害や異常気象で人が死なない未来をつくる」ために行っていることを学びました。中でもAIを活用していることに興味を持ちました。ユーザー共創型の取り組みで得たビッグデータを使い、教師データでAIにディープラーニングさせ、より精度の高い情報を届ける。私はAIに関わる仕事に就きたいと思っているので、とても興味深かったです。

【小玉徳大】

AIと地球の未来

気候変動に対する適応策について、さまざまな観点から

の話聞きました。AIとアプリ利用者からの情報を合わせ、より正確な天気情報を提供することができるという話は衝撃的でした。アプリ利用者から天気情報を提供してもらうという発想も革新的ですが、天気に関するビッグデータを有用な情報へ活用できるAIの情報分析能力、応用技術は素晴らしいと思いました。世の中にあふれるさまざまな情報を、どのような場面で活用できるのか考えてみます。意外なところにニーズはあるのではないかと思います。

【大内瑛成】

一人ひとりの考えが

世界を救う

これからの地球を守り、人類が住みやすい場所を作っていくためにはどうすればいいかということを考えました。地球塾に参加する前は、地球温暖化といえば、平均気温が上昇したり、海面上昇で島が沈んでしまったりといったことを、知識としてただ漠然と知っているだけでした。竹村眞一教授の話で、地球温暖化の深刻さを改めて認識し、自分が地球を守るためにできることは何があるのだろうかということを考えることができました。

【北村麦】

